

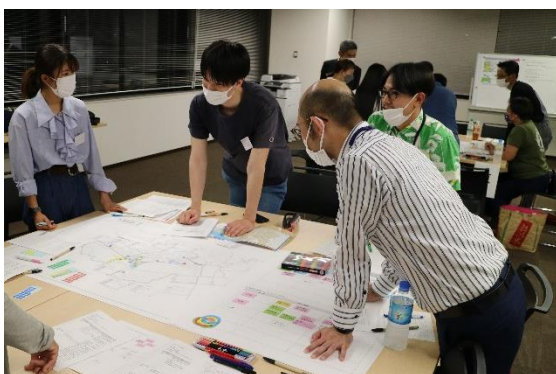
稲敷市 “持続可能な地域づくり” ニュース <vol.3>

6月10日（金）、第2回「いなしきを未来につなぐワークショップ」が開催されました。前回同様、多くの参加をいただきました。また、「持続可能な地域づくりプラン策定委員会」の委員長である大澤義明筑波大学教授の協力で、6名の筑波大生がお手伝いに駆けつけてくれました。

第2回目のテーマは“拠点づくり”で、地図を使ったワークショップです。前回、部会ごとに話し合った地域資源を地図に落とし込みながら、各地区の地域資源について共有化を図り、①生活の拠点、②子育て・教育の拠点、③医療・福祉の拠点、④魅力を発信する拠点、⑤交通のハブとなる拠点、この5つの拠点について話し合いを行いました。



ワークショップには、筑波大生に加え、事務局である我々企画財政課の職員もそれぞれの地元部会に参加し、楽しいながらも真剣に地域のことについて皆さんと話し合いをさせていただきました。



次回のワークショップは7月4日（月）です。9月に稲敷市議会に提案する「過疎地域持続的発展計画（案）」の取りまとめがあることから、これまで話し合ってきた意見やアイデア等をいったん整理し、「持続可能な地域づくりプラン」について話し合いたいと思います。

ワークショップの開催以外にも、メッセージアプリ「Slack（スラック）」での意見交換や部会ごとでの現地視察なども行われており、暫定的な内容ですが、こういったプランにまとまるか、乞うご期待です。

《ワークショップの内容》

○本日は、Slack で進めて頂いた地域資源についての作業をもとに、「地域資源マップ」を作成します。

○作成した「地域資源マップ」をもとに、地域の「拠点」を設定してください。

【作業内容】

■テーマ1 地域資源図を作る。

Slack で作業していただいた地域資源を図面に記入してください。地域全体に分布する資源など、図面に場所を記入しづらいものについては、図面の余白にある表に記入してください。

[地域全体の資源]

地域資源	生かし方

■テーマ2 地域の拠点を設定する。

地域資源をもとに、次の5種類の拠点を設定してください。拠点として設定するのは各拠点それぞれ2つまでとし、設定した理由をまとめてください。

- ①生活拠点 [買い物、公共サービスなど、日常生活に必要な施設を集める場所]
- ②子育て・教育の拠点 [保育施設、学校、子育て支援施設など、子育てや教育に必要な施設を集める場所]
- ③医療・福祉の拠点 [医療施設、介護施設、高齢者施設など、健康づくりや長寿を支える施設を集める場所]
- ④魅力を発信する拠点 [観光や交流など、地域の魅力を生かして来訪者を迎える施設を集める場所]
- ⑤交通のハブとなる拠点 [バスやタクシーなどの公共交通、待合などの公共交通を利用しやすい場所]

【記入例】

拠点の場所(名称)	設定した理由	さらに良くする方法や活用の提案
〇〇周辺	・現在商業施設が立地し、地域住民に利用されている。	・車でしか行けないので、公共交通が必要。
〇〇小学校跡地周辺	・地域にとって親しみがある場所であり、学校の施設も残っている。	・テレワークや起業・創業を支援する施設として利用する。 ・より便利にするために、日常生活で使える店舗があると良い。